

テーマは「思いやり」 エコライフについて考えます。

思いやり通信 NO. 1

平成29年 3月の思いやり通信



エコライフ - 太陽の光を入れすぎた灼熱の家

- ・窓のスペースが大きければ明るくなりますが、明るくなればなるほど、どんどん熱くなります。
 - ・真夏に部屋の窓際に立ったら、体感温度はどれくらいでしょうか。地域にもよりますが、夏でも涼しい地方でなければ、なんと40度以上になります。
 - ・軒をしっかり作って夏の太陽の光を防いだ場合とそうでない場合とでは、室温にして実に5度以上も違います。
 - ・軒がなければ、カーテンやブラインドを窓際に付けても冷房費は相当かかります。
 - ・夜になっても余熱で室温はあまり下がらないので、家にいる間中エアコンをフル稼働しなくてはなりません。
- (高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より抜粋)



平成29年 2月の思いやり通信



エコライフ - 不思議なおいと気密性の関係

- ・人間の鼻は、ある一定のおいをかぎ続けると慣れてしまって、それを異臭と感じなくなります。
- ・気密性が低い家は、どこからともなく常に隙間風が吹いている状態にあるにもかかわらず、換気量が不足しやすいため、部屋の空気を一新することができません。
- ・特に何もしなくても換気がなされる場合があります、これを「自然換気」と呼びます。
- ・自然換気は、屋外の風に寄る圧力差や室内の温度差によって生じます。
- ・雨の日や梅雨のじめじめした季節には、ほとんど自然換気は起こりません。窓を開け閉めして換気しない限り、部屋の中の空気はまったく入れ替わらない状態が続きます。そうすると」結露が起こって、カビや腐敗が発生しやすくなります。

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より抜粋)

